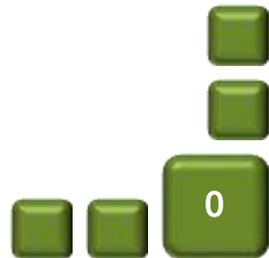
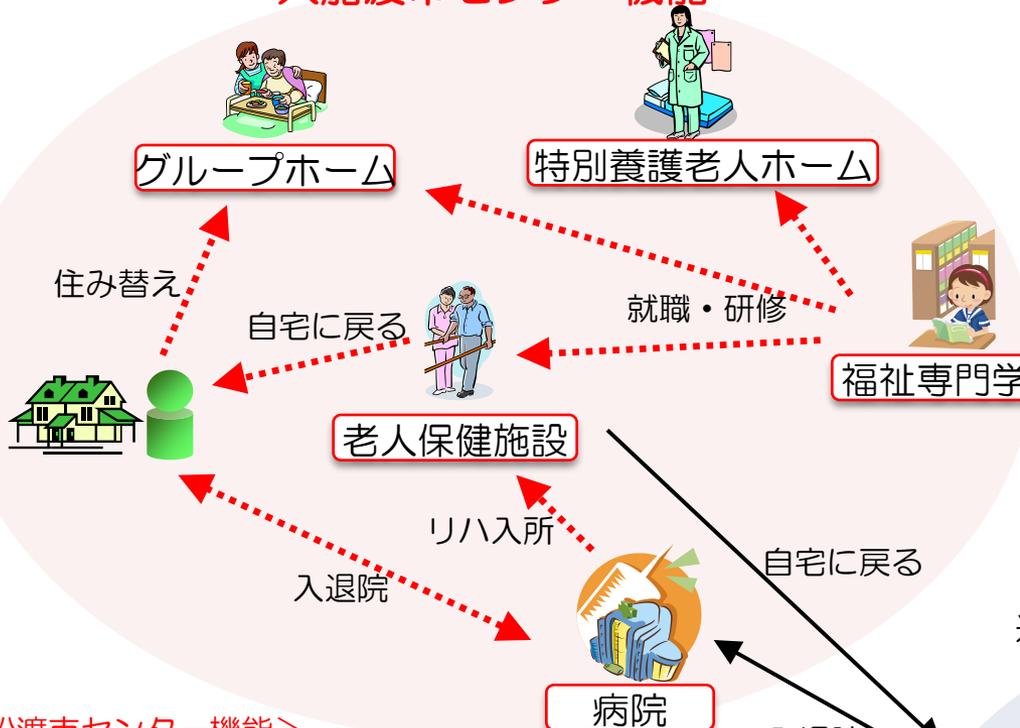

「環境未来都市とまちづくり」の中の コンパクトシティの考え方

大船渡応援団
社団法人コミュニティネットワーク協会
株式会社コミュニティネット
高橋英與



大船渡市全体の地域ケア イメージ図

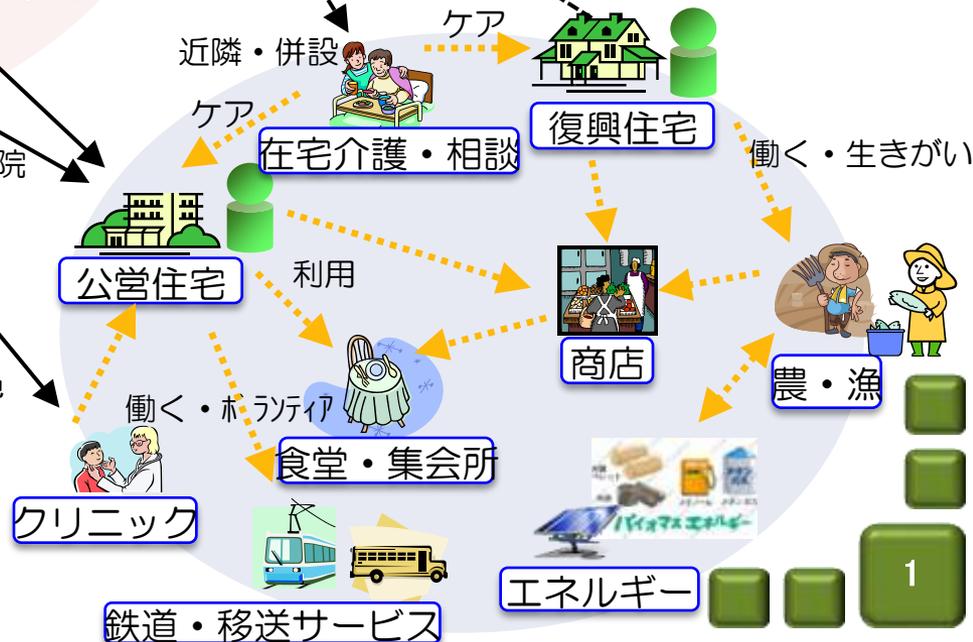
大船渡市センター機能



<各地区サテライト>

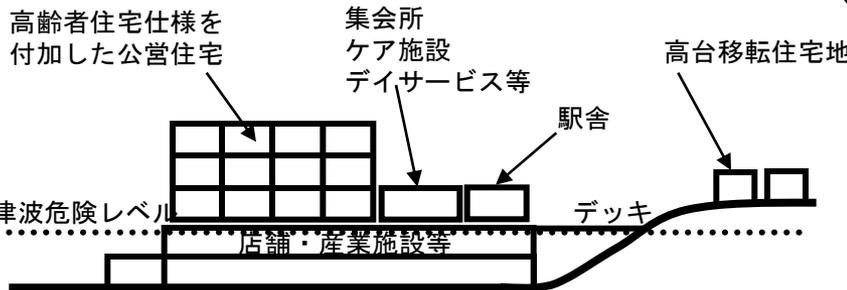
- ▶ 公営住宅に高齢者住宅仕様を付加する。
- ▶ 在宅介護サービスを近隣に設置、もしくは併設をする。
- ▶ センター機能と連携し、高度集中と日常維持の役割分担を行う。
- ▶ 住民が農や移動手段、商店などで働き、ボランティア参加できる仕組みをつくる。
- ▶ 農・漁やエネルギー、ケア、商業を地産地消。
- ▶ 食とエネルギーの自給自足

各地区サテライト



<大船渡市センター機能>

- ▶ 入院機能（急性期）、在宅復帰リハ（回復期）機能、人材育成機能などをセンター機能とし、各地区サテライトと連携し、サテライト地区の安心・充実をバックアップする。



環境と未来都市におけるコンパクトシティの考え方

< 1. 住民やケアの現場が主体になる参加型の企画づくり >

- 小規模の話し合いやヒアリングによって各地域のニーズを把握していく。
- ケアの現場の人たちを中心にコンパクトシティの勉強会を開いていく。
- 専門家や事業者のサポートを受けていく。

< 2. 大船渡市全体の包括的な地域ケアを構築する >

- 病院・老件施設・特養・グループホーム等を大船渡市のセンター的な位置づけとする。
- 各地域にサテライト機能として高齢者住宅仕様を付加した公営住宅を建設する。

< 3. 交通機関としての駅を利用する >

- 公営住宅・他共用施設を鉄道やバスなどの交通利便施設に併設し、地域のコア施設とする。
- 高齢者の移動手段を確保する意味でも重要。移送サービス等の仕組みも構築し、利便性と雇用を確保する。

< 4. 災害に対する対応策 >

- 高台移転住宅地を確保する。もとの生活の場のなるべく近くに整備し、高台の生活が移動不便となり、高齢者の引きこもりなどを助長しないよう、デッキなどでコア施設にアクセスできるようにする。
- 住宅や高齢者施設、避難所ともなる集会所などは、安全な高さに整備する。
- 津波危険レベルより低い部分は被災することを前提に、店舗や産業用施設、駐車場などに活用し、外部階段を経て安全なレベルまで避難できる、津波避難ビルとする。

< 5. 高齢者への配慮 >

- 高齢者・障がいを持つ方・子育てのケアの相談センターを設ける。
- 高齢者を「ケアされる側」としてだけでなく、「ケアやサービスの担い手」として位置づけ、働く場と生きがいづくりを促す。
- 地産地消の循環型の経済システムを構築し、その中に農業・漁業・エネルギー・生活者を位置づける。

< 6. 連携と地域プロデューサーの重要性 >

- 行政と住民の連携を重要視するし、それを支えるために専門家・事業者がサポートしていく。
- 地域コミュニティをまとめるために、地域プロデューサーの役割が重要である。